

(様式第3号)

令和3年度 租税教育事業実績報告書

委嘱校名	都城 市立 小松原 中学校
所在地	〒885-0026 電話番号 0986-22-0645 宮崎県都城市大王町 19-1
ふりがな 校長名	ひあさ まさみち 日浅 雅道
ふりがな 担当教諭名	おくやま まさし 奥山 雅史
<p>1 租税教育の成果</p> <p>○ 「税についての中学生の作文」で全国の優秀賞をとった生徒の作品を給食時間に放送し、生徒に税が身近な存在であることを気付かせることができた。</p> <p>2 租税教育についての反省</p> <p>○ 「税についての作文」を募集する時期までに、税について学ぶ機会を十分に設定することができなかった。取組を充実させるためにも、事前に税について触れる機会を増やしたい。</p> <p>3 租税教育についての今後の課題</p> <p>○ ワークショップ型の租税教室を設定し、積極的に税について考えることができる場を設定することで、生徒の税に対する興味・関心を引き出していきたい。</p>	

- (注) 1 6月に開催される校長・担当教諭会の資料として活用する。
2 1年間の実績をA4判、10枚程度にまとめること。
3 2部作成し、4月末日までに地区協議会会長(事務局)を経由して中央協議会会長に提出する。

(その他)

租 税 教 育 事 業 実 績		
実施年月日	事 項	内 容
R3/4/21	年間計画作成、提出	○ 年間計画を作成し、提出する。
R3/6/17	租税教育委嘱状交付	○ 都城税務署長、総務係長が来校し、委嘱状の交付式を行う。
R3/7/21	租税作品募集	○ 夏休みの課題として、全校生徒を対象に税に関する作文・短歌を募集する。
R3/8/30	租税作品校内審査	○ 租税作品の校内審査を行う。
R3/9/10	租税作品提出	○ 優秀作品（2編）を提出する。
R3/11/15	税に関する授業	○ 3学年公民において、税に関する授業を実施する。
R3/12/3	租税作品表彰	○ 都城税務署長が来校し、租税作品の表彰式を行う。
R4/2/5	租税作品ラジオ放送	○ シティFM都城内の番組「土曜ボンバラ」により、表彰を受けた生徒の租税作品が放送される。
R4/2/8	租税作品校内放送	○ 給食時間に、ラジオで放送された租税作品の朗読を全校放送で放送する。
R4/3/22	年間活動のまとめ 次年度の年間計画立案	○ 租税教育の成果・今後の課題等をまとめ、来年度の年間計画の立案を行う。
R4/4/15	実績報告書の作成	○ 実績報告書を作成する。

令和3年度 租税教育の実際

1 本校の教育目標

心豊かで知性に富み たくましい体をもった 実践力のある生徒の育成

2 本校における租税教育の目的

租税の意義や役割を正しく理解させるとともに、租税の使い道に関心をもたせ、さらには納税者として社会や国の在り方を主体的に考える態度を養う。

3 取組の実際

(1) 租税作品の募集

夏季休業を利用して全校生徒を対象に、租税作品を募集した。取組前に前年度の租税入賞作文を紹介し、作文の書き方の手立てを提示した。8月の下旬に提出作文の校内審査を行い、本校からは2名の作文を提出したが、1名が全国の優秀賞、1名が都城市の銅賞を受賞した。

【受賞作品介绍】

全国納税貯蓄組合連合会優秀賞「学校生活の充実は税のおかげ」

「こんなタブレットの使い方もあるのね。」

合唱コンクールに向けて、パート別の音楽をタブレットで聴きながら家で練習をしていた時に母から言われた。今年から、学校で一人一台ずつタブレットが配布され、調べ学習だけでなく、生徒会の話し合いなどにも活用しており、とても便利である。コロナ禍でいろいろな活動や学習が制限されているが、タブレットのおかげで新しい方法で学習することもできている。このタブレットは、税金で買っていただいたものである。

私にとっての「税」といったら、一番身近なものは「消費税」であるが、「税金を納める立場」というより、「税金に支えられている立場」と思うことの方が多い。

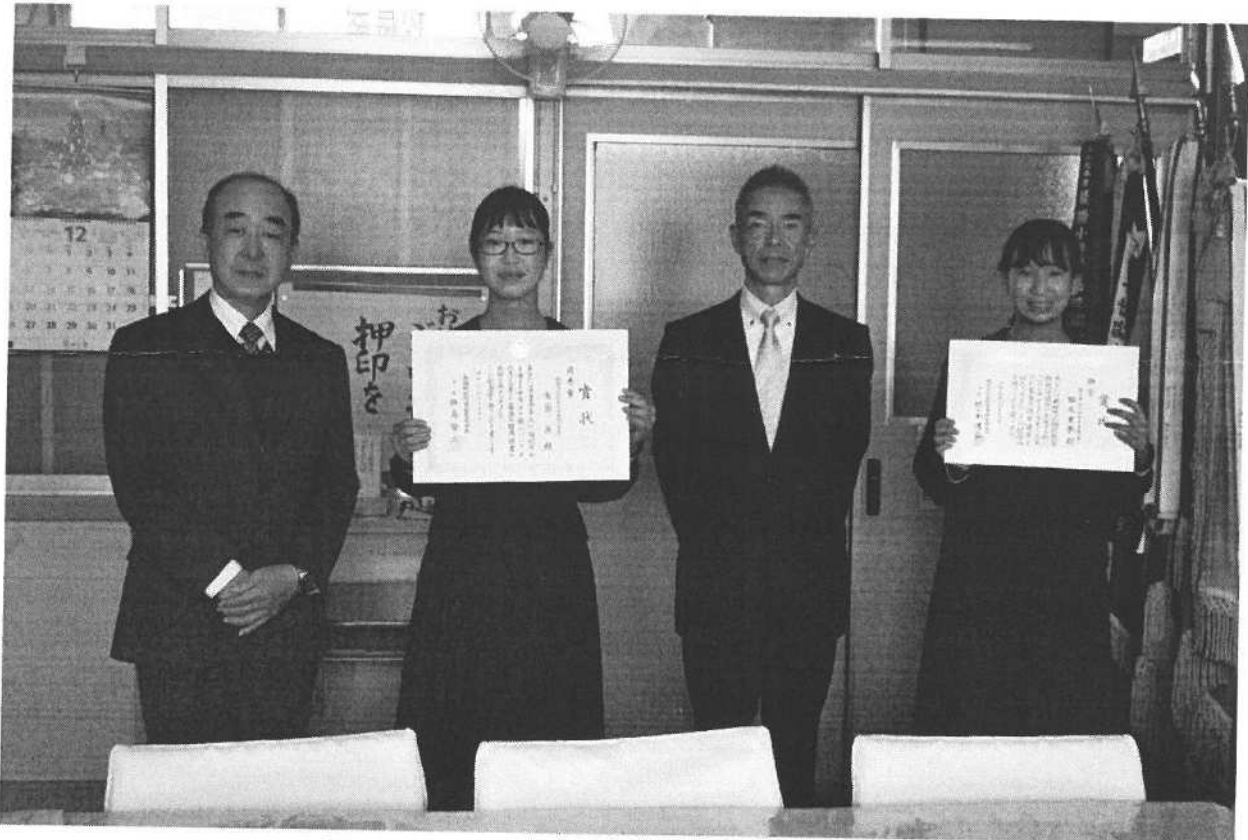
小学校四年生の時に都城市に引っ越してきた私は、都城市は「ふるさと納税日本一」のまちであることを知った。その時、「ふるさと納税」とはどのようなもので、なぜ都城市が日本一になれたのか、市役所に調べに行き、担当の人に話を聞いたことがある。

「ふるさと納税」とは、応援したい自治体に寄付ができる国の制度で、納税した人たちが、「子育て支援」「災害支援・口蹄疫対策」「まちづくり支援」などの税の使い道を選ぶことができるそうだ。都城市は、ふるさと納税をしてくれた人へのお礼として特産品を送り、平成二十七年度、平成二十八年度は寄付件数、寄付金額ともに全国一位で、毎年全国各地から多くのふるさと納税があるということが分かった。また、そのお金がALTや学校図書館サポーターの増員に使われていることも知った。その時の市の担当の方は、全国からの応援に「ありがたい。元気が出る。」と大切にとってある全国から届いたメッセージを見せてくださった。市役所の方も都城市のPRやふるさと納税の活用に力を注がれていることが深く印象に残っている。

令和二年度も都城市のふるさと納税は、百三十五億円以上あり全国一位だった。今年の夏、学校のトイレが様式となってきれいになったことや、タブレットが配布されたことも、ふるさと納税の活用事業の一つらしい。エアコンが設置され快適な中で学習できたり、ALTの授業を受けられたりすることなど、私たちの学校生活が充実しているのも、このような税金のおかげであり、都城市を応援して税金を納めてくださった方々に感謝している。

税金は、消費税やふるさと納税の他に、自動車税、所得税など、さまざまな形で集められ、現在日本には約五十種類の税金があるらしい。将来、私も社会で自立して税金を納め

る立場になっていく。今、こうして税金に支えられて充実した学校生活を送ることができていることを忘れずに、次は自分が支える立場になっていくという自覚を持ちたい。社会を支える一人として誇りを持って税金を納める大人になりたい。



【都城税務署長・校長・入賞者との記念撮影】

(2) 社会科（公民的分野）における税に関する授業

年度当初、都城税務署による租税教室を実施する計画であったが、コロナ禍の影響などから実施が困難となった。そこで、本年度は3学年社会科の公民的分野の学習を通して、本校の租税教育の目的を達成することを目指した。

〈授業1〉

ア 時期 11月初旬

イ 対象 第3学年84名

ウ 題材名 地方公共団体の課題（地方自治とわたしたち）

エ 学習内容と租税教育の関連

本題材では、地方公共団体の歳入・歳出の内訳および地方財政の課題について学習する。授業においては地方公共団体の主な歳入として自主財源としての税収が重要であることや、住民の納めた税が自分たちの生活の向上に役立てられていることを資料から読み取り、現在・将来の担税者としての意識を高めることができる。また、今後少子高齢化の進展による人口減少社会を迎える中で、どのようにして地方公共団体や地方財政を成り立たせていくのかについて考えさせ、当事者意識を高めることにもつながる。

オ 授業の流れ []内は生徒の主な反応
(導入)

- 学校の建設費を予想する活動から、自分たちの納めている税が自分たちの住む地域のために役立てられていることに気づかせる。



都城市が設置しているのは？

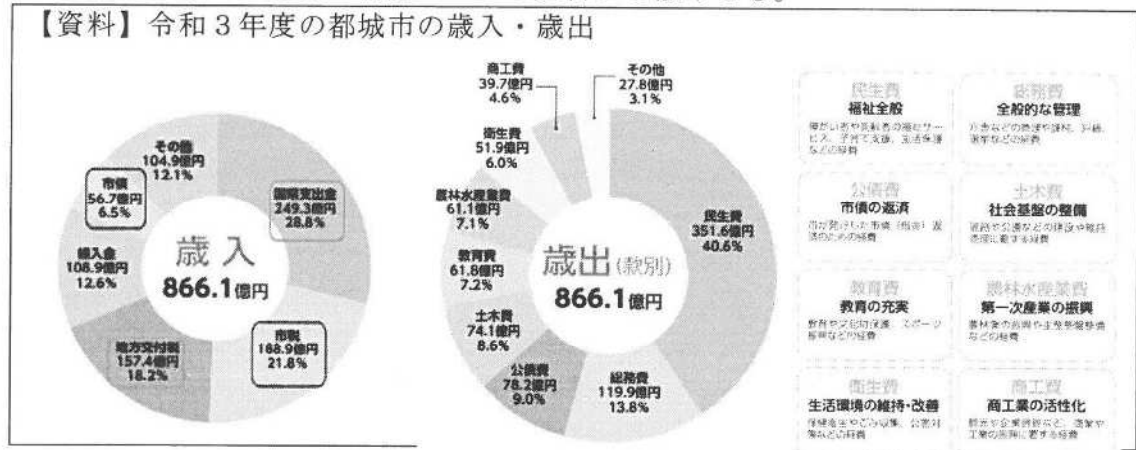
・国民みんなが税金を納めることで、学校も建てることのできるのだな。

- 自分たちの住む都城市がどのようにして事業を行う資金を得て、どのような使い道になっているのかを考える。

・都城市民から集めた税金で消防や学校、ゴミ処理などが行われているだろう。

(展開)

- 都城市の歳入・歳出の特徴について資料から読みとる。



・歳入は、ほとんどが税金だと思っていたが実際は国からの補助に頼っている部分や借金も結構あるのだな。

・歳出は、自分たちの生活に直接関係あるものばかりで、当たり前のようにあるものがないと困るものがたくさんあるな。

- 今後予想される地方財政の課題について意見を出し合う。

・少子高齢化が進み、都城市の人口が今より少なくなったら、税収も減り、今行われている事業ができなくなってしまうのではないかと。税収が少なくなると借金が増加し、住民の生活が厳しくなる可能性もあるのではないかと。

- 夕張市の財政再建の状況に向けた取組について知り、都城市の財政を健全に保つ方法について意見を出し合う。

北海道夕張市の例

2007年に財政破綻＝いわゆる倒産

☆市職員の給与削減…市長は最大75%減

☆市職員の削減…約300人→約150人

☆図書館廃止

☆小学校6校→1校 中学校3校→1校

○市民税…3000円→3500円

○ごみ処理の有料化、施設使用料の50%値上げ

↓

(T_T)人口2007年約12500人→2020年約7600人

- ・今の都城の状態をキープするためには増税や新しい税を導入することもアイデアの一つかも知れない。また、みんながしっかりと税金を納めることも大事だと思う。
- ・歳入を増やすことは大事だが、歳出も工夫して削れる事業については削ってもよいのではないか。無駄遣いをなくすことで借金もすこしずつ減っていくと思う。

〈授業2〉

ア 時期 12月下旬

イ 対象 第3学年84名

ウ 題材名 私たちの生活と財政（3時間）（財政と国民の福祉）

エ 学習内容と租税教育の関連

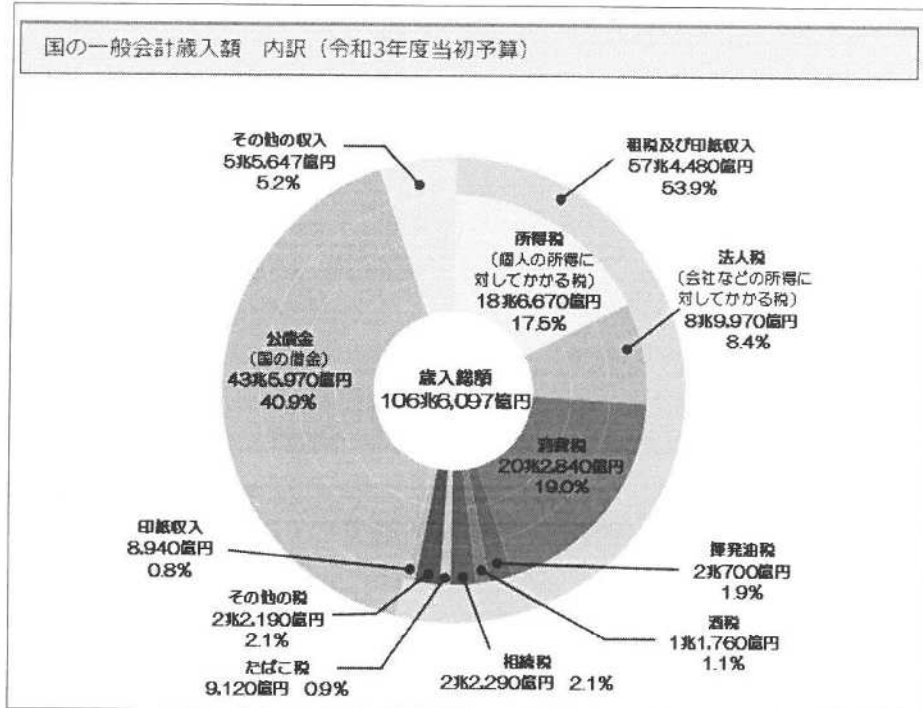
本題材は、税の種類（国税・地方税と直接税・間接税）について学習する。また、歳入と歳出について知ることで国民一人一人の納める税が、国家財政の根幹を支えていることを実感できる題材である。一方で少子高齢化の進展による人口減少をもたらす税収の減少や、膨らみ続ける国債など国家財政をめぐるリアルな課題を目の当たりにする題材でもある。近い将来、現役世代として日本を支える納税者の立場となる生徒たちにとって国家財政について学び、考えることは将来の担税者としての意識を高めることにつながる。

オ 授業の流れ は生徒の主な反応

- 国が事業を行う際にどのように収入を得ているのか、また、そのうち税がどの程度の割合を占めているのかを予想する。

・歳入のほとんどが税収によってまかなわれているだろう。

○資料から歳入の実際の内訳について読み取り、感想を述べあう。



出典：国税庁ホームページ

- ・税金は歳入の60%ほどしかないとは思わなかった。
- ・こんなにたくさん借金をして大丈夫なのだろうか。
- ・自分たちの払っている消費税は結構重要な財源なのだな。

○ 税金の種類について資料から調べる。



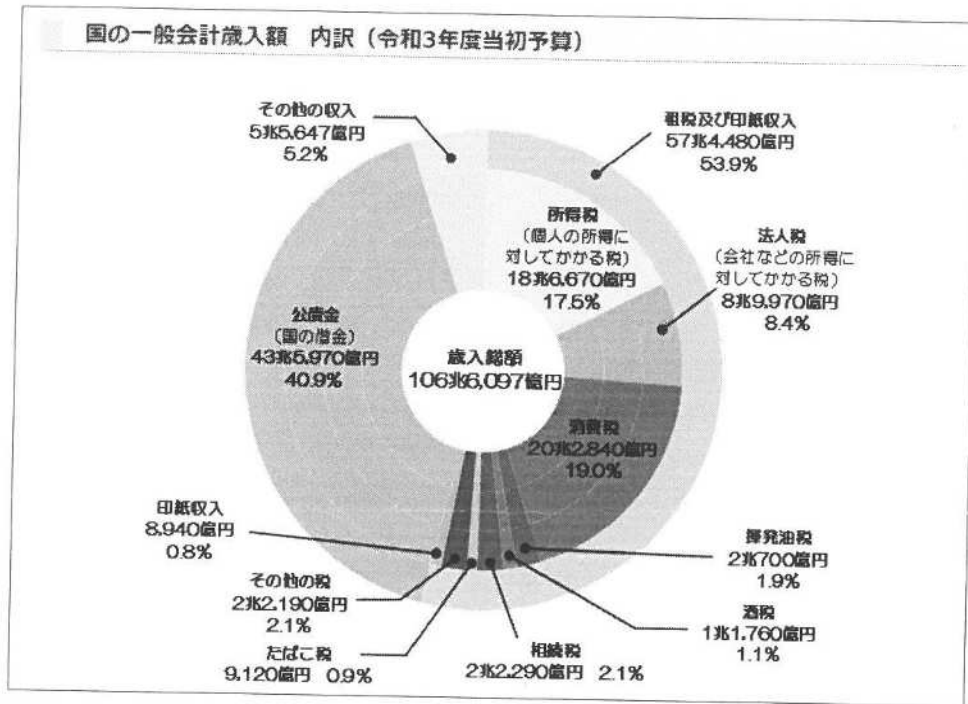
出典：NHK for school

- ・納める先によって、国税と地方税がある。
- ・納税者と担税者が同じなのが直接税、異なるのが間接税である。
- ・国税の直接税の中に所得税、国税の間接税の中に消費税がある。

○ 税負担の公平性を保つための累進課税について確認し、考えを述べる。

- ・全員が所得に関係なく同じ税率でもよいのではないか。
- ・所得の多い人ほど税率が高くなるのは確かに公平かも知れない。

○資料から歳出の内訳を読み取る。



出典：国税庁ホームページ

- ・ 少子高齢化が進んでいるためか社会保障関係費が最も割合が高い。
- ・ 日本は社会保障が充実している。
- ・ 借金返済が意外に多い。

○ 少子高齢化と人口減少が進む一方、多くの国債を抱える日本の財政はどうあるべきか考える。

- A 北欧のように社会保障を充実させるために、大きく増税をする。
- B 現在の歳出の水準を維持させるために、増税をする。
- C 国民の税負担は現状程度とし、歳出を減らす。
- D 国民の負担を減らすため現在するため、歳出を大きく減らす。

- ・ 高齢者が安心して生活できるためにも、Aを進めるのがよいと思う。
- ・ 今の水準でよいと思うが、借金を増やしたくないのでBがよい。
- ・ 多くの国債が残っていることを考えれば、歳出を減らしながら増税するという事も考えなければならないのではないかと。

○授業の感想を述べる。

- ・ 税といっても色々な種類があることが分かった。
- ・ 累進課税制度というのは面白いシステムだと思った。
- ・ 税は少ないほうがよいような気がしていたが、自分たちの生活のことを考えると必要であれば増税もやむを得ないのかと思った。
- ・ これからの税の使い道や国の借金について考えるよい機会になった。
- ・ 将来働くようになったら、きちんと税を納めないといけないと思った。